

社会参加先進国へ

サービスグラント 年次報告書 2019-2020

[2019年4月1日－2020年3月31日]



VISION

社会参加先進国へ

MISSION

プロボノを進化させる



社会課題を前に、誰もが行動を起こすことのできる機会が、すぐそこにある。
多様なそれぞれが互いの違いを尊重し、可能性を活かしあいながら当たり前のように協働できる。
それが、私たちが考え、私たちが目指す、「社会参加先進国」です。

今、「プロボノ」は、非営利団体の活動を躍進させる力として、またビジネスパーソン社会貢献手法として、着実に浸透しつつあります。サービスグラントが切り開き、これまでの実践を通じて培ってきたもの。それは単なる手段や手法ではありません。複数の主体が共通の目的のもとに協働し、成果を生み出すまでに、何が求められ、何が力となるのか。私たちの知見は、これらの普遍的な問いに対して常にアップデートされ続けています。

サッカーをする人が、ボールさえあれば誰とでもプレーを楽しめるように。
音楽を愛する人が、国を超えて歌い、語り合うように。

サービスグラントは、日本と世界の国々を社会参加先進国にすることを目指し、挑戦を続けます。

私たちが取り組むプロボノ

非営利組織の 運営基盤強化

より多くの社会課題解決のために、プロボノプロジェクトを通じて非営利組織の運営基盤強化を支援し、社会課題解決を後押しします。

企業と社会人の力を より広く発揮する

ビジネスとプロボノには相乗効果があります。プロボノは、社会課題解決に寄与するとともに、スキルの再認識やモチベーション向上にも効果を上げています。

誰もがあたりまえに 参加できる地域・社会へ

プロボノを通じて、これまで関わることのなかった人同士が関わり、新たな発見を得ることで、地域・社会に対する視野を広げるとともに、参加するきっかけを提供しています。

代表メッセージ

組織にとってビジョンとは、ほどよい曖昧さを保ちながら、実現したい未来を描き、あるべき活動の方向性を指し示すものです。

サービスグラントが掲げる「社会参加先進国へ」というビジョンも、実現したい未来を短い言葉で表現しつつ、その意味する内容は一義的に規定できるほど単純でなく、いろいろな角度から解釈できるような、いい意味での曖昧さをもった言葉です。

サービスグラントは、プロボノが、信頼できるソーシャルセクター支援の手法であり、かつ、信頼できる社会参加の方法であることを、数多くの実例をもって具現化してきたと言えます。プロジェクトの支援実績は、もうすぐ累計1,000件というところまで近づき、実人数で4,000人以上のビジネスパーソンやクリエイターが、プロボノを経験してきました。

こうした実績は誇らしいものだと思っているそばから、そこにあぐらをかくことなく、次の手を打ち、新しい動きをつくっていくことを、向こう側から求めてくる。「社会参加先進国へ」というビジョンは、つねによりハイレベルな課題を突き付けるような言葉であり続けています。このビジョンを掲げている限り、私たちは歩みを止めることはできない、と、そう思うわけです。

そうした課題へのひとつの答えとして、いまサービスグラントでは「支援者から主体者へ」のシフトを呼びかける一連の取り組みを行っています。

プロボノは、さまざまな団体の課題解決を手伝う「支援者」としての関わり方を提案するものですが、これに対して「主体者」とは、自らアジェンダを設定し、その実行に向けたアクションに取り組む立場を意味します。プロボノを通じて社会課題の実際の様子に触れたことを契機として、自ら起業したり、会社の中で新事業提案を行ったり、あるいは、自宅や身近な地域で新たな活動を始めたりするといった動きがプロボノ参加者のなかから散見されるようになってきたことは、大きな力となり、インスピレーションとなっています。

2020年度、「支援者から主体者へ」と働きかける取り組みが重層的に立ち上がりました。「ソーシャルアクション」をキーワードに、子ども・女性・高齢者という3分野において、プロボノ参加者のみなさまにさらに一歩踏み込んだコミットメントを呼びかける取り組みが始動しています。

いまはまだ試行錯誤の段階にあり、これらの試みがどのように実を結ぶかは未知数です。それでも、「社会参加先進国へ」というビジョンを掲げる限り、新たな可能性を模索しつづけるという営みは、これからも地道に継続していきたいと思います。



2020年 8月

認定NPO法人 サービスグラント
代表理事 嵯峨 生馬



サービスグラントのウェブサイトのリニューアル

より多くの社会課題に取り組む団体に、プロボノの力を届けるため、ウェブサイトをリニューアルしました。活動を広げるサービスグラントの情報プラットフォームとして、ぜひご覧ください。

<https://www.servicegrant.or.jp/>

2019年度の1年間で

149件のプロボノプロジェクトを運営

P6 広がる関わり方の選択肢



昨年度から+807名増の

累計**5,621**名のプロボノワーカーが登録

P8 一層高まるプロボノへの関心



人材育成 × プロボノのプログラム

累計**24**社**147**名の企業人が参加

P9 社会課題解決型人材育成プログラムの展開



企業・行政と

109件の協働プロジェクトを実施

P10 企業・行政とのパートナーシップ



ふるさとプロボノプロジェクト実施累計数

50件を突破

P7 広がる関わり方の選択肢



新聞・テレビ・雑誌など

22件のメディアに掲載

P16 メディア掲載一覧



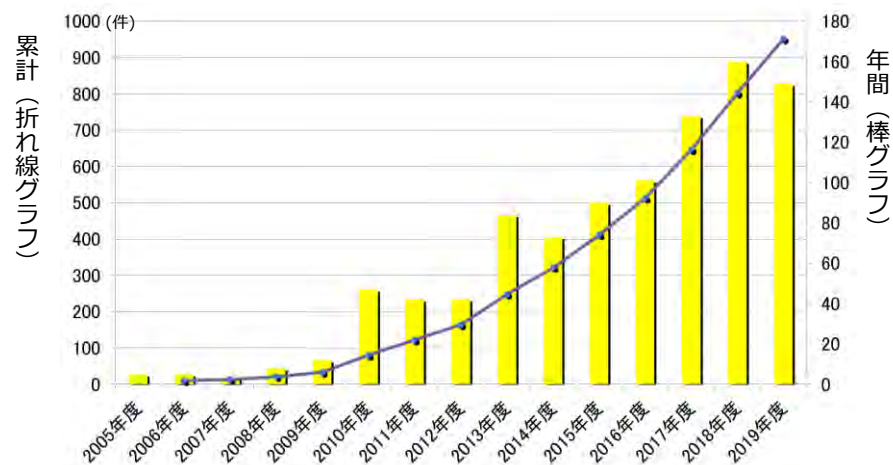
1 | 広がる関わり方の選択肢

年間で149件のプロジェクトを実施

2019年度は、長期・短期合わせて計149件のプロジェクトを実施しました。チームで取り組むものとしては初めて、短期プログラムの件数が全体の約6割を占めました。

新たな取り組みとしては、横浜市と協働でスタートした「ハマボノ」や、5年目を迎えた東京ホームタウンプロジェクトで実施した「ライフシフトプログラム」があげられます。

さらに、「プロボノを進化させる」をミッションに、支援内容や期間、地域など、さまざまなプロボノのスタイルを実現すべく、新たなオンラインプラットフォーム「GRANT」をスタートさせました。これにより、個人単位のプロボノ参加を支える基盤が整い、タイムリーにプロボノを通じた新たなつながりを創出できるようになりました。



長期プログラムで55団体を支援

長期プログラムとは、プロボノワーカー5～6名によるチームを編成し、1名につき週5時間を目安に、3～6カ月間にわたって支援先の基盤強化につながる成果物を提供するプログラムです。支援先に対して、ウェブサイト、印刷物、事業計画立案などの成果物を提供しており、サービスグラントが活動開始以来続けてきた定番のプログラムです。今年度は55件のNPO法人・地域団体・社会起業家等に対して、長期プログラムによるサポートを提供しました。

短期プログラムで94団体を支援

まずは一度プロボノによる支援の仕組みを理解したい、体験してみたいというNPO・地域団体などやプロボノワーカーを対象に、期間や作業ボリュームをコンバクトに設定した短期プログラムを提供しています。約2カ月の期間に複数の団体を一斉に支援する「プロボノチャレンジ（40件）」や1日で成果物の納品を目指す「プロボノ1DAYチャレンジ（15件）」に加え、団体のニーズが発生したタイミングでプロジェクト情報を公開でき、個人単位のプロボノ参加が可能な新プラットフォーム「GRANT」の初年度は8件の実績となりました。また、東阪近郊の横浜市、神奈川県、神戸市などでの短期プログラムの広がりが件数を押し上げ、今年度は、合計94件となりました。

プロジェクト
実施件数

149件

長期
55件

短期
94件



団体が抱える多様なニーズに、的確なタイミングと適切なプログラムで応え、プロボノワーカーの選択肢を広げる「GRANT」



地域デビューへ実践を目指すライフシフトセミナー（東京ホームタウンプロジェクト）



2019年度から新たにスタートした横浜市のプロボノ「ハマボノ」

プロボノ 1 DAYチャレンジ

支援の本番を1日で取り組むコンパクトなプロボノ体験企画として、サービスグラントのプログラムの中でも好評を得ている「プロボノ 1 DAYチャレンジ」。2019年度は10月19日に東京、11月17日に大阪、11月25日に四日市市で実施し、合計約120名のプロボノワーカーが15団体を支援しました。参加者は、4～6人のチームに分かれ事前オリエンテーションから本番当日までの約1カ月の間に、情報収集や支援先の活動現場の見学などをしながら準備を進めます。本番当日は各支援先団体の活動拠点を訪問し、チラシ作成、Facebookページの立ち上げ、課題整理など、各団体の課題解決に役立つ成果物を全チームが完成させました。すべての支援先が「満足した」と回答し、また、プロボノワーカーからも「団体の熱い思いに心動かされた」「得難い経験ができた」という声が多く聞かれました。



本番当日の夜は、各地域で全チームが集合しての成果報告会を実施

ママボノ

ママボノは、育児休業中や、妊娠出産などにより休業や離職をした、仕事の経験を持つママによるプロボノとして2013年度にスタート。2019年度は、東京と大阪でこれまでの秋開催に加えて春のプロボノも実施。神奈川県横浜市の「ヨコハマプロボノ」でもママボノを初めて開催しました。結果、東京・大阪・青森・横浜で合計20プロジェクトを実施、135名が参加しました。これまでの7年間で、延べ68団体を支援し、458名が参加したことになります。

2019年度の新しい取り組みとしては、リーダー2名体制を実施。小さいお子さんがいても、リーダー経験が少なくても、リーダー同士サポートし合いながらプロジェクトを推進することができました。参加者アンケートからは、NPOなどの団体を支援する社会貢献活動でありながら、参加者にとっても育休期間を活用して、スキルを伸ばし、普段できない新しい活動に挑戦をする機会となったことが分かりました。リーダーを経験した方からは、「家族の体調不良の時なども無理なく補い合えて、とてもやりやすかった」「自分の認識・進め方に自信が無い時に確認しながら進めることができた」といった声も。女性活躍推進が謳われる今、ママボノでのリーダー経験は、復職後のさらなる活躍につながると言えます。

また、支援先団体からは、「提案を受けて、事業の核心、訴求ポイントなどが明確になった」「出来なかったと思っていたが、見事に私達でも出来そうな提案をしてくれた」などのコメントをいただき、アンケートでは「支援を受けてよかった」という回答が100%でした。



春のママボノ報告会は、東京と大阪をオンラインで接続



最も大規模な開催は秋の東京。ママだけでも約70名が集合

その他のプログラム

団体が抱える課題解決の必要性や社会的な機運の高まりを捉え、さらなる社会的インパクトの創出を目指すプログラムにも取り組みました。

①ふるさとプロボノ

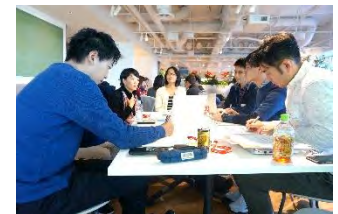
人口減少、超高齢社会に伴う地方創生に注目が集まる中、都市圏のプロボノワーカーが現地滞在・交流を含んだプロボノに取り組む「ふるさとプロボノ」を実施。鳥取県、兵庫県上郡町、福島県南会津を舞台に展開し、プロボノが地方と都市の関係人口を増やす具体的な解決策となりうる可能性を感じることができました。

②プロボノ1DAYワークショップ

常に複数の運営課題に直面するNPOや地域団体などの実態に、第三者の視点を持ち込むことで課題を見える化し、次にとるべきアクションの優先順位を明確にする課題整理ワークショップを開催しました。支援先団体にとって次の一步を踏み出すきっかけをつかむ場になったうえ、企業社員を中心とした参加者は、日頃の仕事におけるニーズ把握や情報整理のスキルが非営利団体にも十分役立つ実感を得ました。

③ライフシフトプログラム

超高齢社会に対応した地域づくりに多角的に取り組む「東京ホームタウンプロジェクト」では、プレシニア世代を対象に、人生100年時代のライフシフトをテーマにしたセミナーのほか、プロボノ活動の前後に仕事の経験の棚卸しと相互の振り返りを組み合わせたオリジナルプロジェクトを実施。実際に地域活動の現場を体感するスタディツアーも開催しました。



CSLベリング様に会場をご提供いただき、4団体4企業が参加してプロボノ 1 DAYワークショップを実施

2 | 一層高まるプロボノへの関心

プロボノワーカー
スキル登録者数

5,621名

前年比
+807名

幅広い年代・職種の社会人がプロボノ登録へ

サービスグラントにプロボノ登録をいただいたプロボノワーカーは、2019年度新たに807名を数え、累計登録者数も5,621名に上りました。ご登録いただいた方にできるだけ多くのプロボノへの参加機会を創出できるよう、今後も取り組んでいきます。

登録されているプロボノワーカーの内訳では、次のような傾向が見られます。

(1) 社会人年数別

本年度プロボノワーカーとしてプロボノ登録した人の中で最も多かったのは入社11～15年程度の世代で、全体の4分の1となりました。その他の世代についても満遍なく登録者数が伸びています。また近年は、定年を控えた世代の登録の割合が増える傾向にもあり、プロボノのすそ野が着実に広がりを見せています。

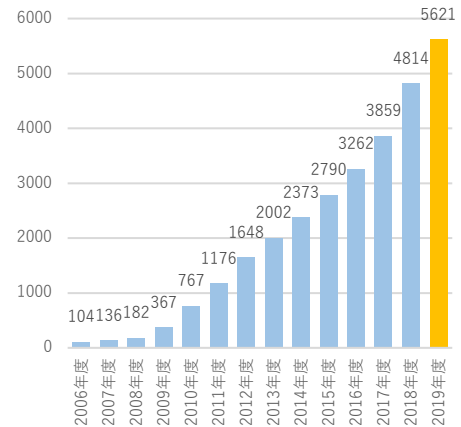
(2) 男女別

男女比については、累計登録者数の全体の55%が男性です。本年度新たにプロボノワーカーとしてプロボノ登録した人は51%が女性で、女性の登録者数が増加しています。

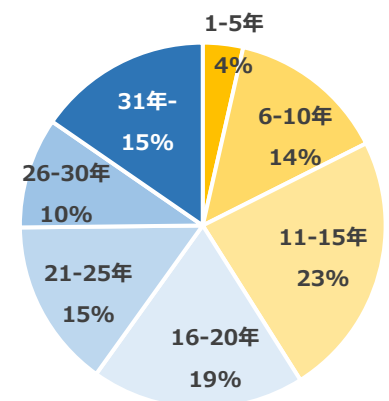
(3) 職種

2019年度は、昨年度までと比べて営業職、経営企画、教育・インストラクターなどに携わるプロボノワーカーの登録が目立ちました。

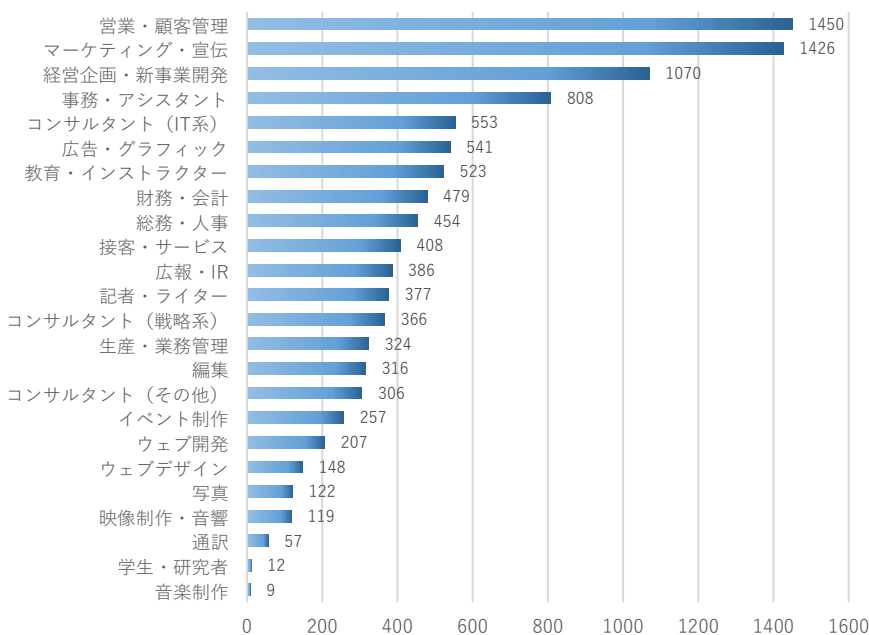
その他にも、各種コンサルタント、デザイナーやコピーライターなどのクリエイターに至るまで、幅広い職種の方が登録されています。



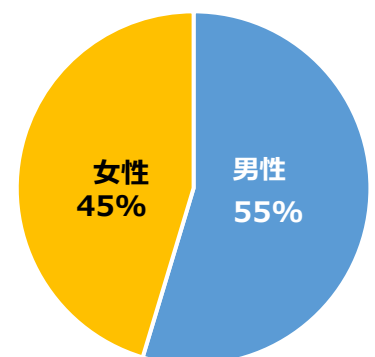
(図1) プロボノ登録者数の推移



(図2) 2019年度社会人年数別登録者の比率



【参考】職種別登録数（2019年度） ※複数回答あり



(図3) 男女別登録者の比率（累計）

3 | 社会課題解決型人材育成プログラムの展開

サービスグラントでは、2016年度より、人材育成を目的とした企業向けプログラム「社会課題解決型人材育成プログラム プロボノリーグ」(旧「プロボノ価値共創プログラム」)を運営し、これまでに24社147名の方にご参加いただいています。

累計参加者数

企業 24社
参加者 147名

プロボノリーグ

「社会課題解決型人材育成プログラム プロボノリーグ」は、リアルな社会課題に対して、初めて顔を合わせたメンバーでビジネススキルを活用し成果を出すという、プロボノならではのプロセスにおいて、仕事に役立つ学びをより引き出すことに特化した人材育成プログラムです。

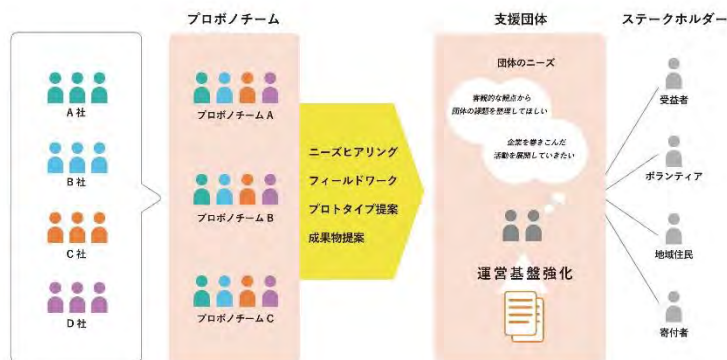
いま、複雑化する社会課題やテクノロジーの進化により、企業の働き方は見直しが迫られています。

本プログラムでは、これからの働き方に必要なチカラを体得するため、異業種企業のメンバーが協働し、社会課題解決を担うNPO組織の一員となって価値を創出する越境経験を行います。

2019年度は、5社から若手・中堅社員が集まり、異業種チームを結成。子育て支援を行うNPO団体の課題解決にチャレンジしました。NPOの代表から、活動内容やその背景にある社会課題の説明を受けた参加者から「予想以上に身近なところに社会課題があることがわかり驚いた。力になりたい。」といった声が多く上がりました。

プログラムでは、NPOの抱える課題の真因をチームで探り、課題を設定、その課題解決のためにNPOが翌日から活用できる成果物制作を行いました。プログラム終了後、NPOから参加メンバーへ、実際に成果物を使用していること、また、そこから成果が出たといった嬉しいフィードバックもありました。

※プログラム概要図



※チーム活動の様子



新たに客観的かつ定量的なフィードバックを実施

2019年度より、参加者の自己変容を促すために、「時代の変化に対応し、市場や社会ニーズに即した価値を創出するために必要なコンピテンシー（行動特性）モデル」を開発し、企業内・プロボノチームメンバーによる360度評価を実施しました。

プロボノ体験だけではなく、プログラムの学び・気づきを客観的かつ定量的なフィードバックを実施することにより、職場でも継続的なフォローをすることができるようになりました。

※フィードバックの様子



※360度評価



4 | 企業・行政とのパートナーシップ

協働
プロジェクト
109件

企業 15件
行政 94件

【1】企業との協働

サービスグラントでは、企業のCSR・社会貢献の方向性や、社員のみなさまの経験・スキル、支援先NPOのニーズ等を踏まえて、企業の特性が活かされるプロボノプログラムの運営サポートを行っています。



※掲載順は、協働開始時期の順です。敬称は略させていただきます

パナソニック株式会社

それぞれの参加動機が、企業理念のもとでひとつになり課題を解決

パナソニック株式会社は、2019年度、中長期プロジェクト5チーム、プロボノ1 DAYチャレンジ1チーム（混成）に計33名が参加しました。9年目となる本年度は、子どもたちの教育と居場所を支える団体を含めた5団体に対し、多様な社会課題についての理解を深めながら運営をより効率よく進めるためのマニュアル作り、活動を応援してくれる人への訴求力を高めるための調査、新たな応援先を探すためにこれまでの事業を振り返り評価する取組み、緊急時の対応を重ねて得られたノウハウの見える化等、運営上の課題解決を支援しました。



SMBCグループ

支援先団体の実績と価値を可視化し、次なる一手に活用できる成果物を提供

三井住友フィナンシャルグループ（SMBCグループ）は、三井住友銀行を含むSMBCグループ各社の従業員による横断型のプログラムを2014年度より展開しています。本年度は4社11名が参加し、荒川河川敷でのごみ拾い活動など河川ごみ・海洋ごみの問題に取り組む「NPO法人 荒川クリーンエイド・フォーラム」と、ダイバーシティ&インクルージョンの普及啓発に取り組む「NPO法人 GEWEL」を支援しました。企業6社へのヒアリング結果から「参加者拡大に向けた調査報告と施策提案」、既存資料や関係者ヒアリング結果から「活動実績と提供価値の可視化」といった、支援先団体が実務のなかで活用できる成果物を納品しました。



日立グループ

参加しやすい短期間でのプロボノ支援により、本業を生かした社会課題解決をめざす

日立グループでは、日立グループ・ビジョンの実現こそCSRと位置づけ、本業を生かした社会課題の解決をめざしています。その一環として、2016年度から短期間での「日立企業プロボノ」を実施しています。

4年目となる本年度は、自社のCSRの取り組みを紹介する社内イベントを通して「日立企業プロボノ」を多くの社員にご案内しました。その結果、教育や環境をテーマに活動を行う5つの団体のプロジェクトを立ち上げることができました。プロジェクトでは、業務フロー設計やマーケティング調査といった支援を実施し、各団体が今後どういう取り組みをしていくべきか提案を行いました。



株式会社リクルートマネジメントソリューションズ

普段の業務では知りえない、非営利団体の運営に寄りそう調査プロジェクト

プロフェッショナルである社員によるプロボノ活動を「プロ活」と称し2017年度にスタート、子ども、教育支援などの活動をする団体を支援しています。

2019年度は、全国のチャイルドラインの先駆けである「せたがやチャイルドライン」を支援しました。支援内容は、子どもの電話相談に対応するボランティアを増やすためのマーケティング基礎調査。アンケート調査やヒアリング調査を行い、新たなボランティア募集に向けた広報施策を提案しました。成果提案では、調査結果をベースに客観的な目で見えたウェブサイト改善を整理してご提案。その他、すぐに着手できるよう具体的な提案資料を、調査報告とともに納品しました。



三井住友信託銀行

多岐にわたる観点からのコラボレーションを念頭に新しい取り組みをスタート

三井住友信託銀行は、CSR、人材開発、顧客サービスの充実といった多岐にわたる観点から、サービスグラントとの協働を開始しました。2019年度はまず「社会課題解決型人材育成プログラム プロボノリーグ」（9ページ参照）に、2名の若手社員が参加。さらにまったく新しい取り組みとして、「財産の一部を社会に役立てたい」と考える自社の顧客を対象に「『想いと相続』特別セミナー」を実施しました。サービスグラント代表理事の嵯峨と過去支援先2団体がセミナーに登壇し、遺贈等の寄付先としてのNPOの可能性や課題・期待等についてお話しました。



その他のコラボレーション

プロボノ1DAY ワークショップ ～非営利団体の組織課題を整理する体験型プロボノプログラム～



非営利団体の組織課題を整理し、課題解決に向けてどのような施策が考えられるか検討するプロボノ1DAYワークショップを、複数企業からのプロボノ参加で実施しました。

参加企業は、株式会社マクロミル、株式会社電通マクロミルインサイト、CSLベアリング株式会社、ライフネット生命保険株式会社、株式会社みずほ銀行、みずほ情報総研株式会社です。各企業から計18名が参加し、子育て支援や若者支援など行う4つの団体に対して支援を行いました。各チームは、事前に実施したオリエンテーションや準備を踏まえ、半日間の集合形式でのワークショップで、団体へのヒアリングを行いながら課題整理と施策の提案を行いました。

調査・研究 ～プロジェクト化する仕事の変化に対し、効果的な越境学習の機会をもたらす～



「社外活動・プロボノが個人にもたらすもの」をテーマに講演を行う藤澤理恵氏

サービスグラントは、研究者との協働研究に積極的に取り組んでいます。2019年度は企業人の越境学習とジョブ・クラフティングをテーマに研究を行う藤澤理恵氏（株式会社リクルートマネジメントソリューションズ 組織行動研究所 主任研究員）の調査に協力。プロボノでは、「異文化のもとで手探りの活動をしながら、社会的インパクトをゴールに置き、正解を示さず、ポジションの力を使わずに人に動いてもらう」といったリーダーシップが必要になります。今後、仕事ますますプロジェクト化していくと言われるなか、こういった能力の育成に、プロボノへの参加経験が貢献することが示唆されました。

また、上野友莉子氏（慶応義塾大学大学院健康マネジメント研究科修士課程医療マネジメント専修）の研究では、プロボノが地域活動への参加やライフシフトをスムーズに行うための有効な仕組みであることが示されました。

【2】行政との協働

東京都「東京ホームタウンプロジェクト」

5年間の取り組みを総括。地域デビューの実践に取り組むライフシフトプログラムも実施



5年目を迎えた東京ホームタウンプロジェクトでは、長期プロジェクトや恒例となったプロボノ1DAYチャレンジのほか、地域デビューに向けての実践に取り組む「ライフシフトプログラム」を初実施。2回のセミナーと、4日間のプロボノ、スタディツアー等を行い、終了後には実際に地域活動へのデビューを遂げたという声も多数届きました。年度総括イベント「東京ホームタウン大学」では昼から夜までの4限構成で開催。基調講演、トークセッションのほか、個性豊かな分科会企画がそろう、計460名が参加しました。

〔2015年度から2019年度までの東京ホームタウンプロジェクトの実績〕

支援先延べ115団体 / プロボノ600人 / 東京ホームタウン大学参加者累計約2,500人

“これまで”の実績を“これから”につなげる「東京ホームタウン大学の教科書」を制作

過去の「東京ホームタウン大学」にご登壇いただいた方々の貴重なお話しのほか、地域団体等で活動するみなさん、プロボノとして地域に関わりを持ち始めたみなさん等、“多様な主体”を紹介する冊子「東京ホームタウン大学の教科書」を制作。「東京のこれから」を作っていくためのヒントがたっぷりと詰まった一冊として活用しています。



▼ダウンロードは
こちらから



大阪府「大阪ええまちプロジェクト」

3年間の支援先団体数は50超。これまで蓄積した知見・情報をカタチに、さらなるええまちへ



団塊世代が後期高齢者となる「2025年問題」を見据え、若手からシニアまでオール大阪で住民主体の支え合いによる地域包括ケアシステムの構築を目指そうと取り組むプロジェクトです。本年度は16の地域団体・NPOに対して、計82名のプロボノワーカーが支援を実施。3年間で支援先団体は53に到達しました。また、開始から3年間で交流会・講座・研修等を29回開催し、行政職員・生活支援コーディネーター・地域包括支援センター職員・地域団体など、のべ1,260名に発信してきました。

行政職員・生活支援コーディネーター 実践ガイドブック「大阪ええまちものがたり」を制作

これまで蓄積してきた知見・情報をまとめ「ええまちづくり」のヒントが詰まったガイドブック「大阪ええまちものがたり」を制作。大阪府下自治体・社会福祉協議会・地域団体へ広く配布しました。この冊子では、過去3年間の大阪ええまちプロジェクトによる画期的な支援事例を元に、行政職員・生活支援コーディネーターが、地域の主役である住民のみなさんとともに「ええまちづくり」を実践するためのステップや事例を紹介。2020年3月に発行後、大阪だけでなく全国各地からダウンロードされ、活用されています。



▼ダウンロードは
こちらから



東京都「地域の課題解決プロボノプロジェクト」

東京都内の町会・自治会の活性化を「個別支援」「実践講座」の2つで支援

プロボノのプロジェクト型支援を行う「個別支援」では、10の町会・自治会を各プロボノチームが支援。町会業務の棚卸しと手順書作成、活動見直しに向けた調査・施策の提案、団体紹介パンフレットなどの具体的な成果物を提供しました。

プロボノプロジェクトによって生み出された成果物の中には、他地域・他団体に応用できる普遍性を持ったものがあります。こうしたプロボノプロジェクトにおける先行事例を参考としながら、集合型の講座への参加を通じて支援先の町会・自治会が主体的に成果物構築に取り組み、プロボノワーカーが側面的な支援を行う「実践講座」を実施しています。本年度は、11の町会・自治会が参加。ホームページやFacebookページを作成する「情報発信講座」と、住民ニーズ把握のためのアンケート調査票を作成する「ニーズ調査講座」を実施し、団体ごとにプロボノワーカーが伴走してサポートしました。



神戸市「神戸ソーシャルブリッジ」

「神戸をよりよい街に!」地域社会の課題解決をプロボノで支援

まちづくりに力を発揮する神戸市内のNPO・地域活動団体と、社会貢献活動を希望する人材をつなぎ、地域社会の課題解決に協働して取り組むプロジェクトです。

企業人だけでなく、行政職員、学生、シニア等多様な人材が参加するのが特徴。2年目を迎えた2019年度は、2ヵ月間のプロジェクトを実施し、延べ13団体83名が参加しました。年度を総括するイベントには、地域課題やプロボノに対して興味を持った一般の方も85名参加し、計120名の参加となりました。



横浜市「ヨコハマプロボノ(ハマボノ)」

働き盛り世代からシニア世代がプロボノで、横浜型地域包括ケアシステムを活性化

急速に高齢化が進む中、横浜市は「地域ケアプラザ」（市内140カ所）を拠点に、高齢・障害・子どもなど分野横断で地域の福祉ニーズに応える共生型の取り組みを全国に先駆けて推進しています。2019年度からスタートしたハマボノは、地域包括ケアに関する活動を展開する市内のNPOや地域活動団体を支援先とし、7プロジェクトを実施。幅広い世代のプロボノワーカー42名が参加し、団体の組織運営上の課題解決にチャレンジしました。



神奈川県「プロボノチャレンジKANAGAWA」

2018年度・2019年度の活動を通じて、神奈川県内のボランティア活動の土壌をより豊かに

神奈川県立かながわ県民活動サポートセンターとの協働事業として、2018年度より2年間実施しました。2019年度は、県内のNPO・地域団体等の基盤強化を目的として、58名のプロボノワーカーが参加し、13団体を支援しました。このうち6団体については、神奈川県内の中間支援組織がサービスグラントによる伴走支援を受けながらプロジェクト運営を行うことで、プロボノプロジェクトの運営ノウハウを実践的に学びました。今後は、参加した中間支援組織が運営の主体となって、神奈川県内におけるプロボノの展開を行っていきます。



千葉県松戸市「プロボノMATSUDO2019」

「GRANT」の仕組みを活用して高齢者の健康寿命増進を応援した3年目

地域活動と健康寿命との関連性を証明する研究「松戸プロジェクト」の一環でスタートして3年目となる2019年は、サービスグラントの新たなマッチングの仕組みである「GRANT」を活用して5団体を応援しました。団体運営の効率化、地域に広げるためのニーズ調査、高齢者支援相談員の募集チラシ作成、会員増加のためのFacebook立ち上げ、高齢者向けサロンでの講師募集などの支援内容に、市内や近隣の市から参加した6名のプロボノワーカーが個人でのプロボノに取り組みました。



三重県四日市市「プロボノ1DAYチャレンジ in YOKKAICHI」

「つながり」と「お互いの知識を活かし合う場」を体感した1日

本年度は、プロボノ体験プログラム「1DAYチャレンジ」を通して3団体を支援しました。多様な専門性をもつ17名のプロボノワーカーに加え、活動のオブザーバーとして5名の高校生が参加しました。さらに、プロボノを知っていただくためのセミナー「大人の社会科見学 in 四日市」を初めて開催し、参加者と支援先候補団体が共に参加するアイデア出しワークショップを実施。ビジネススキルや専門知識を社会に還元するプロボノという市民活動について理解を深めました。



青森県「青森プロボノチャレンジ」

県民と地域の新しいつながりをつくる、2カ月間のプロボノチャレンジ

青森県では、県民の誰もが地域で育ち、地域を助け、地域で安心して暮らしていくことができる「青森県型地域共生社会」に向けて、NPO・地縁組織・企業などの多様な主体の連携・協働を進めています。本年度は、これまでの東青・中南・西北地域に続き、活動エリアを広げ、県南・下北地域である八戸市でもプロボノチャレンジを開催しました。県内NPOや地域団体の活動のステップアップに向けて、23名のプロボノワーカーが5団体の支援を行いました。



鳥取県「とっとりプロボノ」

県内団体の支援を通じて、都市のプロボノワーカーが鳥取県の関係人口へ

鳥取県南部町と八頭町の2団体に対して、首都圏などの都市部から11名・県内から8名、計19名がプロボノプロジェクトに参加しました。

都市部からの参加者は、現地滞在の機会も活用しながら県内メンバーや地域の人たちと交流を深め、合同チームの良さを活かしました。また、プロボノによって地域課題の解決に取り組む団体を支援することで、地域と強く関わっていききました。プロジェクト完了後は、「ふりかえり会」を実施し、メンバー同士のフィードバックを通じて、互いの活動について振り返りを行いました。



5 | 新しいスタイルの社会参加を加速する

これまでのプロボノプロジェクトは、社会課題解決に取り組む団体に対し、サービスグラント事務局ないしアカウンタディレクターが支援内容に応じチームを編成したうえで支援する形を基本として改善を重ねてきました。一方で、プロボノによる支援の成果をさらに拡大するため、細やかなニーズにスピーディーに対応できるプロジェクト手法の開発にも取り組んでいます。

ここでは、サービスグラントが取り組む、より大きな社会的インパクト創出に向けた試みをご紹介します。

GRANT <https://grant.community/>

「GRANT」はサービスグラントが独自に開発した社会参加のためのプラットフォームです。その最大の特徴は、あくまでも“非営利組織目線”。「NPO・地域団体などの負担を最小化したボランティアのマッチングとマネジメントのプラットフォーム」をコンセプトに開発しています。開設早々、登録者100人を突破し、2019年度は5件のプロジェクトが完了しています。人的・資金的なリソースの限られたNPO・地域団体などが、安心して使うことができるシステムを目指しています。

「GRANT」の特徴

- ① 期間とゴールを明確にした「プロジェクト型支援」
- ② 支援期間中の「目標・スケジュール」を支援者自ら提案
- ③ マッチングまでの流れをサポートする数々の「テンプレート」
- ④ プロジェクトの進行状況をフォローする「リマインド」機能
- ⑤ お互いへの感謝を表現する「アセスメント」



プロジェクトの募集・進捗状況を掲載。参加登録を随時受付中

6 | 国際的ネットワークとの連携

グローバル・プロボノネットワーク

34カ国52地域のプロボノコーディネート団体が参加しているグローバル・プロボノ・ネットワークに、サービスグラントも立上げ当初から参加しています。プロボノプロジェクトのコーディネートや、ネットワークを通じた協働プログラムの促進に向けたイベントやオンライン会議の開催、情報発信キャンペーンの企画・実施を行っています。



公式ウェブサイトの構築を担当
<https://globalprobono.org/>

国際的プロボノキャンペーン「プロボノウィーク」に参加

プロボノウィークとは、世界各地でプロボノに関するイベントやセミナー等を集中開催し、プロボノに対する社会的関心を高めるグローバルキャンペーンです。

2019年10月20日～26日の期間中およびその前後に、日本では青森、東京、四日市、大阪各地から「プロボノ1 DAYチャレンジ」や「ママボノ」、各地域単位での「プロボノチャレンジ」など、各種イベントを集中開催しました。また、日本から世界に向けて、アクティブなプロボノプロジェクトの様子をSNSを通じてリアルタイムで発信しました。



メディア掲載一覧

新聞	◆2019年 6月17日 東奥日報 ◆2019年 6月19日 デーリー東北 ◆2019年 8月14日 日刊工業新聞 ◆2019年 8月27日 読売新聞 ◆2019年 9月 6日 デーリー東北 ◆2019年10月23日 朝日新聞 大阪版 ◆2019年10月31日 デーリー東北 ◆2019年12月11日 朝日新聞 ◆2019年12月14日 日本経済新聞 ◆2019年12月19日 日本経済新聞(タリ)
ラジオ	◆毎週火曜 渋谷のラジオ 渋谷のプロボノ部 (2020年3月終了)
雑誌・専門誌	◆2019年 7月 2日 織研新聞 ◆2019年 7月26日 レアリティ vol.25 (日立製作所) ◆2019年 7月26日号 ツ・ナ・ガ・ル (一般社団法人チーム医療フォーラム季刊誌) ◆2019年 8月号 さあ、言おう (さわやか福祉財団) ◆2019年10月号 ウェブデザインング ◆2020年 2月18日 織研新聞
テレビ	◆2019年11月7日 NHK「ニュースシブ5時」 ◆2020年 2月21日 テレビ朝日「東京サイト」
地域情報誌	◆2019年秋号 たまら・び 悠 (多摩信用金庫)
ウェブ	◆2019年 5月31日 公益財団法人 全国中小企業振興機関協会 ◆2019年10月16日 朝日新聞デジタル

講演実績

講演	◆2019年 4月26日 府中市市民活動センター ◆2019年 6月 6日 名古屋市 ◆2019年 6月14日 青森県 ◆2019年 6月22日 法政大学 ◆2019年 7月25日 Schoo「LIFE SHIFT実践-100年時代に生きる「変え続ける力」の磨き方-」 ◆2019年 11月 2日 府中市 ◆2019年 11月 6日 足立区社会福祉協議会 ◆2019年 12月16日 津田塾大学「地域ケア論」 ◆2020年 2月 3日 取手市福祉交流センター ◆2020年 2月13日 練馬区町会連合会 研修
----	---

▼日刊工業新聞 2020年8月14日 “志”や“共感” 旗印 プロボノ活動広め地域貢献



▼読売新聞 2019年8月27日 育児女性の仕事復帰後押し 地域活動で予行演習



▼朝日新聞(大阪版) 2019年10月23日 広がる「プロボノ」 仕事のスキル生かして社会貢献



7 | 会計報告

サービスグラントの会計年度は9月末が決算期です。
2018年度(2018年10月1日～2019年9月30日)の活動計算書は以下の通りです。

科目		金額	
I	経常収益		
1	受取会費		
	正会員受取会費	133,000	133,000
2	受取寄付金		
1	受取寄付金	505,200	505,200
3	受取助成金等		
	受取補助金	720,000	720,000
4	事業収益		
	サービスグラントの提供を通じたNPO支援事業	624,634	
	企業・行政等との連携によるプロボノプログラムの運営事業	129,154,215	
	プロボノプログラムの運営を担う人材育成事業	89,157	
	プロボノの普及・広報・社会的制度化に関する事業	3,252,191	
	その他の目的を達成するために必要な事業	0	133,120,197
5	その他収益		
	受取利息	327	327
	経常収益計		134,478,724
II	経常費用		
1	事業費		
	(1) 人件費		
	給料手当	50,082,597	
	法定福利費	8,358,335	
	人件費計	58,440,932	
	(2) その他経費		
	外注費	23,811,550	
	会議費	5,638,682	
	交際費	555,201	
	旅費交通費	6,916,494	
	通信運搬費	1,079,899	
	消耗品費	338,185	
	新聞図書費	35,435	
	印刷製本費	833,906	
	租税公課	20,000	
	支払手数料	590,766	
	研修費	54,398	
	水道光熱費	86,006	
	地代家賃	1,346,567	
	保険料	5,130	
	賃借料	120,528	
	減価償却費	67,500	
	その他経費計	41,500,247	
	事業費計		99,941,179
2	管理費		
	(1) 人件費		
	給料手当	6,121,000	
	法定福利費	895,500	
	福利厚生費	197,914	
	人件費計	7,214,414	
	(2) その他経費		
	外注費	2,089,917	
	会議費	91,691	
	交際費	125,640	
	旅費交通費	1,118,980	
	通信運搬費	649,101	
	消耗品費	562,768	
	新聞図書費	21,649	
	水道光熱費	375,788	
	印刷製本費	184,058	
	諸会費	65,000	
	支払手数料	1,117,181	
	研修費	29,000	
	地代家賃	4,608,789	
	賃借料	304,560	
	保険料	5,100	
	租税公課	5,707,600	
	支払報酬料	1,328,400	
	減価償却費	1,022,032	
	その他経費計	19,407,254	
	管理費計		26,621,668
	経常費用計		126,562,847
	税引前当期正味財産増減額		7,915,877
	法人税、住民税及び事業税		1,883,800
	当期正味財産増減額		6,032,077
	前期繰越正味財産額		22,268,970
	次期繰越正味財産額		28,301,047

今年度の支援先一覧

【東京事務局】

(青森県・宮城県・岩手県・福島県・東京都・千葉県・神奈川県・静岡県)

一般社団法人アース・カンパニー
青葉GoGoクラブ
赤坂新町五丁目町会
昭島市自治会連合会
麻生スマイルクラブ (高津総合型スポーツクラブSELF)
NPO法人アジア人文文化交流促進協会
ACHA Project
厚木市障害者福祉事業所連絡会
厚木つばきの会・つばき作業所
認定NPO法人あっちこっち
NPO法人荒川クリーンエイド・フォーラム
池上徳持南町会
いこいの家 夢みん
NPO法人ABCジャパン
NPO法人エンパワリング プレストキャンサー/E-BeC
NPO法人エンリッチ
青梅市大門第2自治会
大泉住宅共栄会
公益財団法人お金をまわそう基金
NPO法人おもいやりカンパニー
NPO法人「親の時間」あおもり
わたちの戦争と平和人権基金
一般社団法人学習サポート・スコラ
神奈川骨髄移植を考える会
神奈川子ども未来ファンド
認定NPO法人かながわ311ネットワーク
上馬西町会
神田駅東連合町会
神田多町二丁目町会
NPO法人関東シニアライフアドバイザー協会江東部会 (江東SLA)
きしゃポップ
一般社団法人輝水会
境南地域社協 (境南地域福祉活動推進協議会)
鞍居地区ふるさと村づくり協議会
小金井市けやき通り商店会
小金井市中央商店街協同組合
小金井地区高齢者支援連絡会
子どもARTプラットフォーム
NPO法人コミュニサーあおもり
コモンビート
鷺宮エリア介護ネットワーク
桜台親和町会
笹塚仲町会
サポート中瀬
NPO法人サンカクシャ
NPO法人ジービーパートナーズ
NPO法人 シニア大樂
しばさき彩ステーション
GEWEL
循環型社会創造ネットワーク (CROSS)
NPO法人消費者被害防止ネットワーク東海
新宿傾聴しおりの会
スカイスーツクラブ取手
スタジオMalua
すまいる会
世界自然保護基金ジャパン
世田谷社会福祉協議会上野毛地区事務局
せたがやチャイルドライン
せや
NPO法人 全国移動サービスネットワーク
全国こども食堂支援センター・むすびえ
全国災害ボランティア支援団体ネットワーク (JVOAD)
千住仲町会 (千住南部町会・自治会連合会)
ぜんしん
一般社団法人SENRO
鷹番1・2丁目町会
NPO法人 地域で育つ元気な子
地域の居場所を考える会
一般社団法人 チーム医療フォーラム
地球の友と歩む会
社会福祉法人六踏園 調布学園・第二調布学園
チルドレンズ・イングリッシュ・センター
東京YWCA
常盤平はれの日サロン

富ヶ谷町会
NPO法人なんぶ里山デザイン機構
西新井東町会
西東京市民フレイルサポーター
日本オーガニックコットン協会
社会福祉法人 日本国際社会事業団
NPO法人 日本こどものための委員会
日本障害者女子ソフトボール協会
一般社団法人日本UNEP協会
練馬断酒会
羽沢町会
ハーブガーデンからふみだそう！
バーンロムサイジャパン
NPO法人婆娑羅凡人舎
はちのへ女性まちづくり塾生の会
NPO法人パティチーム
NPO法人ピアサポート F.A.cafe
PAHの会
認定NPO法人びーのびーの
東四つ木南町会
認定NPO法人 病気の子ども支援ネット
平戸平和台地区地域運営協議会
NPO法人 Fine
文月会
認定NPO法人ブラチナ美容塾
ふらっとステーション・ドリーム
フルーツバスケット
社会福祉法人 幹福祉会 ヘルプ協会たちかわ
本町東町会
まつど☆笑いヨガクラブ
みなみあいづ森林ネットワーク
南新宿町会
NPO法人宮ノマエストロ
薬王寺町会
山中親交会
RACプロジェクト

【関西事務局】

(大阪府・兵庫県・京都府・奈良県・三重県・石川県)

NPO I FOR YOU Japan
あたデコ食堂
NPO法人あっとオーティズム
あっとすくーる
泉大津市和花
SS応援団協議会 事務局WG
一般社団法人 おいしい防災塾
介護保険市民オンブズマン機構大阪
がんばれ日本
「絆～私の生き方を考える～」実行委員会
北青木自治会
一般社団法人神戸フィールドスポーツ協会
神戸元町商店街連合会
NPO法人こども育ちわたり育ちMadrina
こどもワクワク食堂
こもれび相談室
NPO法人 児童虐待防止協会
シニアサークル「男の囲炉裏端」の会
NPO法人 社会還元センター グループわ
淳風とよなか地域貢献委員会
NPO法人そらしど
団地の寺子屋
地球環境市民会議
ニランジャナセフサンガ
認知症予防活動コンソーシアム
寝屋川あいひの会
認定NPO法人はんしん高齢者くらしの相談室
東大阪地域リハビリテーション活動倶楽部
東中浜アクションプランプロジェクトチーム
NPO法人ふーらいふ
NPO法人ホザナ・ハウス
ボランティアネットコロ
街かどアライブ西冠
町の便利屋さん
三重県交通遺児を励ます会
NPO法人 三重ナースマネジメント協会
ゆるりん

事務局所在地

東京事務局（団体本部）

〒150-0002
東京都渋谷区渋谷1-2-10
TEL 03-6419-4021
FAX 03-6419-3885

関西事務局

〒541-0047
大阪市中央区淡路町2-5-16
淡路町ビル8F
TEL 06-6484-5810
FAX 06-6484-5820



役員

理事

嵯峨 生馬（代表）
生駒 芳子
岡本 祥公子
川淵 恵理子

監事

石原 英樹

特別顧問

奥山 俊一

フェロー

新井 博子
河田 浩司

スタッフ

東京事務局

小林 智穂子
津田 詩織
宮坂 奈々
樫尾 直美
角永 圭司郎
北詰 佳子
柴岡 久美子
中川 寛允
中島 裕子
草野 杏子
上原 一紀
太田 侑里
菊池 斐
細川 美津子
阿部 孝
小泉 英治朗
曾根 泰夫

関西事務局

槇野 吉晃
河井 靖子
鈴木 七重
堀 久仁子
永野 純一郎

賛助会員のご案内

この報告書でも掲載している通り、サービスグラントでは、企業・行政・財団との協働プロジェクトを通じて、プロボノの展開とともに、団体の財政基盤を確保しながら活動を続けています。

しかしながら、財政的な裏付けはなくとも、社会的インパクトの創出を第一義に、社会課題解決に寄与するNPOの支援についても、継続してプロボノプロジェクトの立上げ・運営を行っていきたいと考えています（2019年度は、長期プログラムによる支援55件のうち約40%にあたる23件が自主事業による運営）。

こうした自主事業を支える仕組みが賛助会員です。

サービスグラントによるプロボノを通じて、支援先となるNPO・ソーシャルセクターにインパクトのある支援を提供することに向けて、ぜひみなさまの応援をお願いします。

賛助会費は、**1口3,000円/年** から。

お支払いは、クレジットカード・銀行振込で受け付けています。

なお、サービスグラントは、寄付者のみなさまが寄付金の税額控除を受けることができる「認定NPO法人」を取得しています。

▼詳しくは以下URL、もしくはQRコードよりご覧ください。
<https://www.servicegrant.or.jp/about/supportingmember/>



